

香川県教育委員会 7 月定例会会議録

1. 開催日時 令和 7 年 7 月 1 0 日 (木)
開 会 午前 9 時 3 0 分
閉 会 午前 9 時 5 0 分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	淀 谷 圭 三 郎
委 員	藤 澤 茜
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博
委 員	鳥 取 美 穂
委 員	持 田 め ぐ み

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	塩 田 広 宣
教育次長(兼)政策調整監	和 田 友 樹
教育次長	吉 田 智
総務課長	景 政 孝 輔
義務教育課長	西 原 明
高校教育課長	橋 本 和 之
特別支援教育課長	笠 井 幸 博
保健体育課長	高 田 孝 行
生涯学習・文化財課長	持 永 新
高校教育課長補佐	西 山 聡
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	佐 伯 卓 哉
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	橘 正 隆
特別支援教育課長補佐	増 田 大 輔
総務課副主幹	尾 藤 真 由 美
高校教育課主任指導主事	関 正 英
高校教育課主任指導主事	筒 井 京
特別支援教育課主任	草 薙 拓 郎

傍聴人 なし

5. 会議録の承認

6 月 6 日に開催した定例会の会議録署名委員の木下委員から、同定例会の会議録

について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題については、非公開とすべき案件がない旨、発言

7. 議 案

○議案第1号 専決処分事項の承認（令和7年6月香川県議会定例会に提案された教育委員会関係議案（追加提案分）に対する意見について）

総務課長から、令和7年6月県議会に追加提案された教育委員会関係議案に係る地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に規定する教育委員会からの意見について、香川県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第5条第1項の規定に基づき、教育長専決により異議のない旨、申し出を行ったことについて諮る旨、説明。

【質疑】 なし

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 令和8年度香川県立高松北中学校入学者選抜要綱について

高校教育課長から、令和8年度香川県高松北中学校入学者選抜要綱について諮る旨、説明。

【質疑】 なし

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜における全国からの生徒募集について

高校教育課長から、令和8年度香川県公立高等学校入学者選抜における全国からの生徒募集について、説明。

【質疑・意見交換】

＜鳥取委員＞小豆島中央高校など、いい事例がたくさんあったが、適応できなかった生徒や問題点など、ここ数年間でどのような事例があるか。

＜高校教育課長＞せとうち留学を始める際に、それぞれの地域で馴染めなかった子が本県にやってきて、再び馴染めなくなるのではないだろうかという懸念があったが、令和３年度に１４校で実施して入学した生徒で、馴染めなかった生徒はいなかった。

＜橘課長補佐＞その後、ごく少数ではあるが、残念ながら、出身県に戻り、転学した事例を把握している。

＜蓮井委員＞昨年度と今年度を比較すると、丸亀城西高校だけが昨年度から合格者数の上限を減らしているし、今年度から実施方法を「転住・通学」から「通学」に変更しているようだが、これは学校の特殊事情か、それとも、何か不具合が生じているのか。

＜筒井主任指導主事＞丸亀城西高校については、これまで１０人を上限とし、門戸を広げていたが、ここ数年、希望者があまりいないという実情の中で、変更したものである。中讃地域には市町をあげていろいろご協力していただいております、下宿先等を確保していただき、また広げたいと思っている。

＜蓮井委員＞振り返りと出直しというイメージか。

＜筒井主任指導主事＞丸亀城西高校では、これまでせとうち留学生を受け入れていたが、いずれも親族の家から通学していたものであり、ここ数年はそのような希望者がいなかったという状況である。

＜木下委員＞せとうち留学制度は、制度上、経済的な助成などは無理なのか。

＜高校教育課長＞支援については、観音寺市が、通学する生徒に月２,０００円、転住してくる生徒に月１万円の補助をしており、東かがわ市でも同額の補助をしている。県立学校ではあるのだが、各市町が地元の高校として支援してくださっている状況である。

＜木下委員＞市町の裁量で、ある程度弾力的に運用できるということか。

＜高校教育課長＞この制度を作るときに、県だけで行っていくことが難しいというところがあった。高校というのは、第１に、子供たちの教育だと思うが、地域活性化に果たす高校の役割が非常に大きくなっていることから、市町にご理解いただき、県立高校だけれども、地元市町の学校として支援していただけないかと働きかけて、市町に支援していただいている状況である。

＜木下委員＞極端な話、例えば、各市町が毎月３万円出してもよいということか。

＜高校教育課長＞していただけるとありがたい。

＜木下委員＞そうしたらもっと来るのではないか。